

【長崎県】工賃UP通信vol.1

今年度、全都道府県で「工賃倍増5か年計画」を作成することになっています。
「長崎県も工賃倍増の取り組みをするらしいけど・・・何をやるの?」
と思っている施設の方も少なくないと思います。

そこで、公式な文書とは別に、この通信で工賃倍増に関する情報などを発信しながら、皆さんとの率直な意見交換の場としたいと考えています。

多くの職員の方に、お気軽に読んでいただけると幸いです！

注目！新聞記事

07.12.19 朝

思い描く夢へはじめての一步

諫早でバザール準備

働く障害者 暮らす街に

諫早市の福祉作業所などが作った品を即売する「ナイスハート バザールin諫早」が22、24日、同市本町の中央市街地商店街「アエルいさはや」で開かれる。主催する「働く喜びサポート事業実行委員会」副会長の志賀正幸さん(39)は、共に支え合える地域づくりをめざして多くの住民に来てもらいたいと呼びかけている。

会場には、17障害者団



体・施設の約500人が作った約100種類5千点が並ぶ。しめ縄や卓上カレンダー、鍋料理に欠かせない地元産の野菜、花や苗物、柿渋を重ね塗りしたエコかご、さをり織りののれんなど、心がこもった品ばかりだ。

バザールは昨年度から3年間の市障害者福祉計画の工賃は月額約1万1

200円に過ぎない。アンケートは、消費者の好みをつかみ、技術水準を上げて、工賃の底上げをめざそうという試みだ。企画・運営を担う志賀さんは「『福祉施設の商品』と断らなくても売れる品を提供したい。働く障害者が地域で暮らせるような社会をつくるための一つのステップだと思いい、みんなと頑張りたい」と張り切っている。

諫早では、施設の方々と市役所の職員が一体となって工賃の増額に取り組んでいます。

先日行われた打ち合わせに参加しましたが、みんなが率直に意見を出し合える楽しい会議でした。

次のバザールは3月に開催されるそうですが、絶対いいものになるでしょう！



発行 長崎県障害福祉課自立支援班(担当:村井) 平成20年1月17日
〒850-8570 長崎市江戸町2-13
電話095-895-2455 FAX095-823-5082
※ご意見、ご感想をお待ちしています！

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.2

2回目の通信です。

今、県では工賃倍増に役立つ事業を計画中で、近々ご案内できる予定です。
その取り組みの1つが、県から施設への発注です。

今、関係各課と最終調整をしていて、調整が終わり次第、県庁全課、出先機関、県立学校などへ案内をすることにしていて、少しでも多くの発注につなげていきたいと考えています！

注目！ネタ

福岡県の出版社が創刊した、施設の商品を紹介している「アリヤ」という雑誌の1ページです。

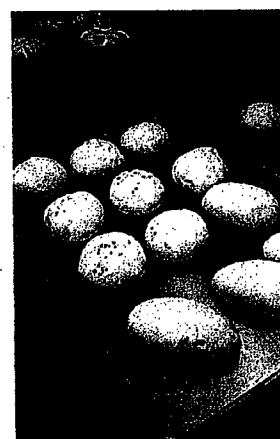
施設の「商品がなかなか売れない」という声に、「消費者に情報が届いていない。だから、読みたくなるような情報誌にした」とのこと。

実際、写真がふんだんに使ってあって、「商品」よりも利用者がいきいきと作業をしている様子にスポットが当てられています。

長崎県も、授産製品のファンを作るために、このような取り組みをする予定です。

※雑誌に関するお問い合わせは、アリヤ出版092-400-2203まで。

オープンなどの機械や包丁を使うのも、はじめはみんなドキドキでした。

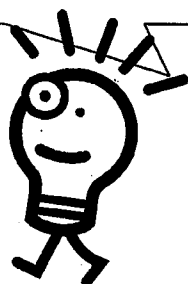


さをり織りをメインに授産事業を行ってききましたが、「売れない」のが大きな悩みでした。そこで2004年、お菓子とパン作りの設備を導入。「ほかにない個性のあるパンを」と生きたのが、栄養たっぷりのヘルシーパンだったので。

「専門家に指導していただきましたが、慣れるまでは大変でした。成形に失敗したり焦がしたり、職員も含めみんなで失敗しながら覚えしました」と、職員の上野和純さんが当時を振り返ります。「包丁が使える、家で母親のいない間に練習した人もいますよ(笑)。今はみんな上達して、もうすっかり任せてます」

以前は主に利用者や家族など身内に向けて販売していましたが、最近では近隣の福祉センターや病院などでも出張販売。利用者が地域の人と触れ合う機会も増えました。

「施設の授産品のなかでもパンは主力商品になりつつあります」まさに、希望のパンなのです。



発行 長崎県障害福祉課自立支援班(担当:村井) 平成20年1月25日
〒850-8570 長崎市江戸町2-13

電話095-895-2455 FAX095-823-5082

※早くもタイトルを変えました。(堅苦しかったので)

・親しみやすいネーミングがあれば、ご提案をお待ちしています！

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.3

工賃倍増に向けた取り組みが、平成19年度から全国で始まっていて、長崎県でも事業を実施していくこととなりました。

近々、照会の文書が届くと思いますので、詳しくはその文書をご覧くださいののですが、先に概要だけご説明すると、

- ①主婦や学生などに施設製品を実際に使ってもらい、その感想を皆さんで共有することで、製品等の改善に役立てる調査
- ②工賃引き上げに成功した施設の方などによるセミナーなど、です。

楽しく、役立つものにしますので、ご期待ください！

ある主婦の方とお話していたら、
こんな嬉しい話を聞きました。

注目！
ダイレクトメール

「以前、三彩の里で陶芸体験をしたところ、その後、半年に1度くらいイベントのお知らせが送られてくるので、また行ってみたいな～、と思うんですよ！」

早速、三彩の里のご担当にうかがいました。
「1度、商品を買ってくれたお客様は、間違いなく、うちの商品に興味や関心を持っていっぱいます。」

その方々に直接ダイレクトメールを送ることができれば、イベントや新商品が出るたびにチラシを作って不特定多数の方に配布するよりも、効率的ですよ。」

是非、参考にしてみてください！



デザインは専門家に外注しているそうです。とてもかわいいですね(^^) ※個人情報の取り扱いには注意してくださいね。

発行 長崎県障害福祉課自立支援班(担当:村井) 平成20年2月1日
〒850-8570 長崎市江戸町2-13
電話095-895-2455 FAX095-823-5082
※ご意見やご感想、ご質問などお待ちしております！

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.4

先日、施設の製品を学生や主婦などのモニターの方に使っていただき、その感想を聞いて製品の改良に役立てませんか？という文書をお送りしたところ、多数の施設からご応募いただいています。

大学生や主婦の方の意見には、耳の痛いものもあるかもしれませんが、よりよい製品づくりに役立つはず。

このモニター制度が好評であれば、次年度は定期的を開催していきたいと考えています。

先日、ある方から、
「工賃倍増といっても、難しいんじゃないの？長崎県は県民所得も全国で低い方だし…」
とのご指摘をいただきました。

そこで、今回は「工賃倍増5か年計画」について、改めてご説明します。

ご指摘のとおり、確かに、工賃倍増は容易ではないでしょう。

平成18年度の「倍増計画」対象施設の平均工賃(月額)は、
●全国平均は12,222円
●長崎県11,181円(全国31位)
●1位は高知県で16,014円
●最下位は大阪で7,990円

上にあるように、県民所得とは、あまり関係はないようです。

まずは全国平均を超えたいですね。近々、授産協の田中会長にインタビューして、お考えをうかがう予定です！

工賃倍増5か年計画とは？

授産施設等で生産活動をしている障害者が地域で自立した生活を送るために工賃水準を引き上げることに加え、一般雇用への移行も促進する観点から、産業界等の協力を得て官民一体となって推進するための計画です。

工賃倍増5か年計画の対象施設は？

- (ア) 就労継続支援B型事業所
- (イ) 身体・知的・精神各障害者授産施設
(小規模通所授産施設を含む)
- (ウ) 以下の事業所
※就労継続A型事業所、福祉工場等で「工賃引上げ計画」を作成し積極的に取り組んでいる事業所
※地域活動支援センター及び小規模作業所のうち、就労継続支援B型事業所等への移行を具体的に計画し、取り組む事業所

発行 長崎県障害福祉課自立支援班(担当:村井)
平成20年2月8日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13

電話095-895-2455 FAX095-823-5082

※今回の取組みには、いろんなお考えがあると思いますが工賃を上げたいという点では、変わらないでしょう。

※「うちでは、こんな取組みをしとるよ！」という施設には、取材に行きたいと思いますので、是非ご連絡ください！

※ご意見やご感想、ご質問などお待ちしております！

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.5

今年度、県は「工賃倍増5か年計画」を作成するのですが、国からの通知では、事業所でも工賃を増やすための目標や計画を定めることが望ましいとされています（強制ではありません）。

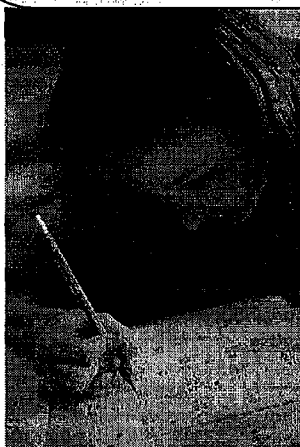
事業所が作る計画は「工賃引上げ計画」という名称ですが、今回、参考にもらえるように、様式案を作りました（本日発送します）。

目標金額はいくらか？目標に対して現状はどうなのか？目標を達成するにはどういう手段が必要なのか？などについて、多くの方と議論して、実際に書いてみると、いろんなことが見えてきそうです。
今すぐじゃなくても、作成されることをオススメします！

今週の インタビュー

工賃倍増の事業を実施する時に
いろんな方の意見を
聴いているのですが、
**長崎純心大学の
林田さんもその
お1人。**

将来は福祉の道に
進みたいという林田さん
に、授産製品の印象に
ついて、インタビュー
してみました。



（この写真はイメージです）

学校では、どんな勉強をしてるんですか？

林田さん「現代福祉学科で福祉について勉強しています。ゼミでは精神障害者のことを学んでますが、実習では知的障害者の施設にも行ったことがあります。」

— ところで、授産施設等で作られている製品を知ってますか？
林田さん「学校の学園祭や実習施設、大丸での販売会などで見たことはありますが、買ったことはないですね。」

— なるほど。製品を見た感想は？
林田さん「値段が、ちょっと高いかな？という印象があります。食べ物は買ってみたいですね。でも、ぬいぐるみとかは必要じゃない限り買わないかも・・・。」

— では、どうすれば、もっと買ってもらえると思いますか？
林田さん「値段がもう少し安くなればいいですね。製品は、小物類以外にも、日常生活で必ず使うものを作るというのはどうでしょう？石けんとか、鉛筆とか。。。（注：「作っている施設もあるのを見てくださいね」と伝えました）
あと、かわいい物なら目をひくかも！例えば、石けんなら、形を花柄とかハート形にしてみるとか。そうすれば、いろんな年齢層にうけそう。見た目がかわいかったら、手にとってみる人は多いと思います。」

— 試験勉強でお忙しいところ、ありがとうございました。

発行 長崎県障害福祉課自立支援班(担当:村井) 平成20年2月15日
〒850-8570 長崎市江戸町2-13

電話095-895-2455 FAX095-823-5082

※林田さんは、障害者に強い関心を持って実践していらっしゃるので、
将来、頼られる支援者になると確信しました。

※ご意見やご感想、ご質問などお待ちしております！

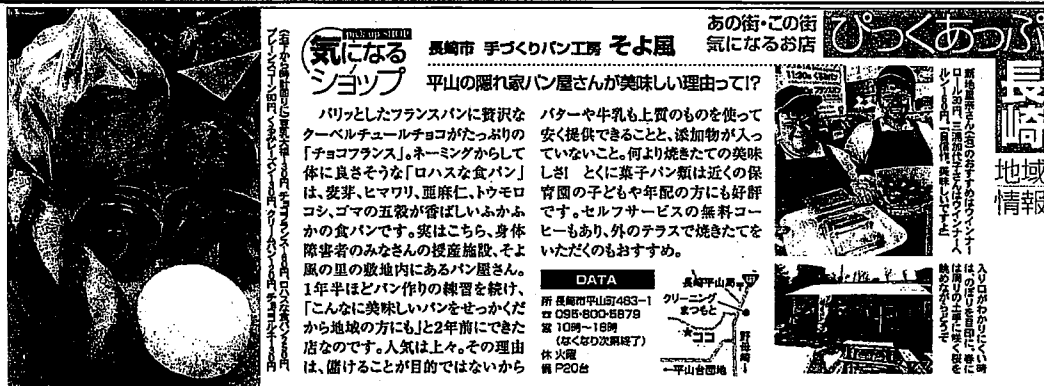
【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.6

今日は、2月17日（日）発行の「ととって」（長崎新聞社広告局発行）に掲載された長崎市平山町のそよ風さんの記事をご紹介します。

そよ風ではパンを販売されていますが、購入するのは女性が多いようです。一方、資料によると「とととて」の読者の85%以上が女性。

ということは、反響が大きかったのではないかと！
早速、施設長の高浜さんにお話をうかがいました。

注目！
「とっ」とって



—「とっとして」にはどうやって掲載されたんですか？

高浜さん「先方から『取材に来てもいいか?』と話がありました。記事にとりあげてもらう仕掛けは大事だと思います。」

一 掲載後の反響はどうでした？

高浜さん「普段の売り上げの倍くらいになりました。掲載後はいつもよりお客様が多いことを見込んで多めに焼いたのですが、それでも売り切れてしまうくらいでした。以前、一般紙に掲載された時よりも反響は大きかったですよ。」

— お客さんの層はどんな方が多かったですか？

高浜さん「8割は女性ですね。『とっとして』の読者層とかぶったのかもしれませんが。」

一 掲載後の反響で、特に印象に残ることはありましたか？

高浜さん「遠いところから来られたお客様や、初めて見えられたお客様が多かったことでしょうか。新規のお客様に来て頂くことは、売り上げ増には重要です。」

一 今後の展望などを教えていただけますか？

高浜さん「掲載後4～5日経っても、普段の3割は多い状況です。お客様にはポイントカードをお配りしていますが、できればお客様にダイレクトメールなどを送れる体制ができれば理想ですね。」

発行 長崎県障害福祉課自立支援班(担当:村井) 平成20年2月22日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13

電話095-895-2455 FAX095-823-5082

※製品の主な購買層が見るような媒体を選べば、こんなに効果が出るんですね。作っていらつしやる製品を購入される方の、性別、年齢、職業などを考えてみると、いい媒体があるかもしれません。

※少しずつ、施設からご意見をいただくようになりました。今後、随時紹介していきます！

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.7

ニュースレターの5号に掲載した長崎純心大学の林田さんのインタビューの中で「授産商品を買ったことがない」と発言されたのを読んで、「それじゃ、うちのパンを食べてもらいましょう!」と、純心大学に馳せ参じたのが江迎町の知的障害者通所授産施設「サクラ」の末永施設長。

林田さんにパンを食べてもらうためだけに、江迎町から長崎市までいらっしやった行動力には感服、感動しました!

大学では林田さんを始め、学生の皆さんに自慢のパンを試食してもらったところ、「おいしい!!こんなにいい材料を使ってるのなら、POPなどで材料やこだわりをアピールすれば、とても興味が湧くと思います!」などの意見をもらったそうです。こうやって、少しずつ輪が広がるといいですね!!

長崎のふれあいバザールは日本一!

今週の インタビュー

今回は、県下施設の発展にリーダーシップを発揮されていらっしゃる長崎県授産施設協議会の田中信春会長にロングインタビューを敢行しました。

※今回は、前編を
ごらんください。

— 改めて、授産協の工賃増加の取組みを教えてください。
会長「主に、平成3年から開始しているふれあいショップの取組みがある。ふれあいでは年間3千万円以上を売り上げるため、工賃の増加に非常に貢献しており、他県も問い合わせるほど。しかし、最近では施設自体が忙しいのに加え、手間もかかるし、売り上げが伸び悩んでいる。」

— ふれあいショップで印象的なことはありますか?
会長「最初に西友道ノ尾店さんに出店し、以後、大丸さんや長崎駅前のかもめ広場にも出店しているが、とりわけジャスコさんは非常に協力的で、場所代を無料にしてもらっているなど、とても感謝している。」

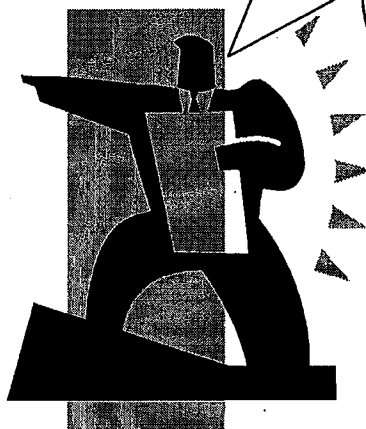
— 国や県が「工賃倍増5か年計画」を開始したことについては?
会長「やっと工賃を上げようという気になってくれたか!という感じ。工賃だけで施設が評価される訳ではないが、工賃の目標を設定し、実績を公表することで、施設の競争心が芽ばえるのはよいこと。」

— 現状の課題は何ですか?
会長「施設は今までも工賃を増やす取組みを一生懸命にやってきたが、障害の程度が軽度な利用者が就労するようになる一方、施設の利用者は、障害の重度化や高齢化が進んでいる点だ。機械設備などでカバーできるようになればよいが。」

次回は、「工賃倍増計画」に対する授産協の姿勢や、県に対するご意見、今後の抱負などをうかがう予定です。

発行 長崎県障害福祉課自立支援班(担当:村井) 平成20年2月29日
〒850-8570 長崎市江戸町2-13
電話095-895-2455 FAX095-823-5082

※お忙しい田中会長にお時間を割いていただき、今回のインタビューが実現。本当に前向きに取り組まれており、私も身が引き締まりました。
※3月開催のセミナーは、各々40人が受講決定。6日が締め切りです!



【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.8

ニュースレターの2号で紹介したように、「授産施設の商品やサービスを、県でも積極的に利用してください!」と、学校や警察署も含めて300以上の県関係機関に案内をしたところです。

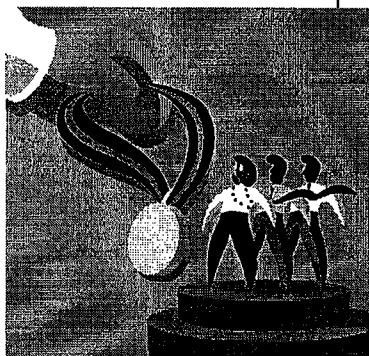
すると、思った以上の反響で、県北地域のある出先機関からは「現在、庁舎から出る廃棄物の処理を民間企業に頼んでいるが、もし授産施設等で廃棄物処理業の許可を受けている授産施設があれば、教えて欲しい。」との連絡がありました。

県北地区で該当する施設の方、いらっしゃいませんか?ご連絡お待ちしております!

今週の インタビュー

前回に引き続き、
**長崎県授産施設
協議会の
田中信春会長の
インタビュー**です。

今回は、後半を
ご紹介します。



工賃引き上げに向けて

ー授産協として、工賃倍増についてどう考えますか?

会長「全国の上位を目指すのはいいが、1つ1つ目標をクリアしていけば自然と上がっていくものだと思う。

聞くとところによると、大分トリニータのグラウンドの管理は、授産施設が受託しているそうだ。このような仕事は、シルバー人材センターが競合となるが、老人と違って障害者の場合には生活に直結するので必死にならざるをえない。高い工賃を払っている施設は、それ相応の努力をしている。」

ー官公需についてはいかがでしょう?

会長「官公庁からの発注には期待している。年間契約ができれば、施設の中心事業となるので大きい。現在の官公需の1割を取れたとしても、相当な業務量になる。少しでも受託できるようにしたい。

ー今後の抱負をお聞かせください。

会長「施設も、行政も、みんながその気にならないと工賃倍増は進まない。工賃倍増事業の活用は、県と連携していきたいので、今後、定期的に会合を開いていければ、うまくいくと思う。

作品や製品ではなく、商える品、つまり商品でないと売れない時代になった。いい商品を提供できるようにしたい。」

※お忙しいところ、本当にありがとうございました。

県全体の工賃引き上げには、施設との連携は不可欠だと考えていますので、是非、定期的な会合で意見交換させていただきたいと思います!

発行 長崎県障害福祉課自立支援班(担当:村井) 平成20年3月7日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13

電話095-895-2455 FAX095-823-5082

※いよいよ10日(月)に「工賃倍増セミナー」が開催されます。現時点で64名の方が受講者予定です。

※私もセミナーで勉強して、今後、このセミナーの内容をご紹介します。

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.9

最近出席した会合の中で、授産施設の職員の方のお話を聴いて、「なるほど！」と思うことが、たくさんありました。

そこで、今回は、実際に施設の方がお話しされたことを中心にご紹介させていただきます。

お取引実績のあるお客様のフォローや、新たなお客様を獲得するためのヒントになれば幸いです！

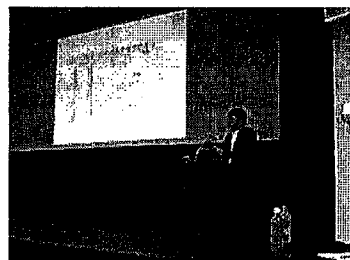
「リスト化」について

まず、「きょうされん九州ブロック学習交流会・長崎大会」の分科会で発表された、福岡県田川市の知的障害者通所授産施設**第2つくの里**で、パンやクッキーの担当をしている**平山美里さん**(五島出身、20歳代なのに第一線で活躍!)から。

「お昼用のパンは、役場や学校、警察など約60カ所で販売しています。販売先は、電話帳で番号を調べて、電話で新規開拓営業をしました。販路開拓は、職員がメインでやりますが、仲間(利用者)も一緒にやるんですよ。」

次に、3月10日の「工賃倍増セミナー」でお話いただいた多機能型(B型、就労移行、生活介護)さくらんぼの管理者**大野健志さん**からは、弁当販売についてです。

「弁当のメインターゲットを30～40歳代男性に設定したので、事業所から半径3km以内にあるメインターゲットが居そうな会社を、商工会議所の会員リストやタウンページ(タウンページのインターネット版)で探して、アタックリスト(アタックする顧客リストのこと)を作り、営業をかけました。」



(講演中の大野さん)

ニュースレターvol.3でご紹介した**三彩の里**さんが発送している**ダイレクトメール(DM)**も、1度利用された**お客様をリスト化**していなければできない取り組みです。

また、私が以前勤務していた民間企業でも、「現在、お取引のあるお客様」「お取引実績はあるが、現在はお取引がないお客様」「資料請求のみで、お取引実績はないお客様」「今後、お取引の可能性が高いお客様」などのリストを作って、**訪問、電話、DMなどでフォローやアタック**をかけていました。

皆さんの施設でも、営業に入る前に、お客様やお客様になりそう(できそう)な個人や企業、学校、自治会やサークルなどの集まりの住所や電話番号(わかれば、ご担当者名や担当部署)などを**リスト化**してみてもいいのではないでしょうか？

発行 長崎県障害福祉課自立支援班(担当:村井) 平成20年3月14日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13

電話095-895-2455 FAX095-823-5082

※10日(月)に開催された「工賃倍増セミナー」はNHKのローカルニュースで放送されました。メディアでの放送を通じて、少しでも多くの県民に授産商品を知ってもらえるようになれば、と思います。
※21日(金)のセミナーを受講される方には、『宿題』をFAXしました。私も自分のことを考えてみます。

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.10

今週、施設の会合に出席させていただき、意見交換をしてきました。

意見には「県庁からの発注が少ないのでは？」というものもありましたが、発注量については、目立った実績がなかったのも否めません。

今後、県庁内の発注案件の情報収集を積極的に行っていくだけでなく、施設への発注案件をどのように納品していくのかについて合意を得ないと、発注側・受注側ともに混乱しかねないと懸念しています。

情報交換させていただいて、いい形を作っていきたいと思います。

庁舎内での商品販売について

上に書いた話ともつながりますが、庁舎内に授産施設の店舗を開設した春日井市の話をご紹介します。

春日井市役所のロビーでは、授産施設で作ったパンや豆腐などを販売しています。このことについて、春日井市福祉課の佐藤さんにうかがいました。

—いつから販売を始めたのですか？

佐藤さん「去年の春からです。もともと、庁舎で物を販売することは目的外使用となり認められないのですが、『福祉課の事業』と位置づけることで使用できるようになりました。ただ、許可が得られるまで二転三転四転と・・・」

—販売する施設はどのようにして決めたのですか？

佐藤さん「ある程度の品数を作れることと、障害者が実際に販売することなどを条件にしたところ、今の4施設に限定されました。『障害者が販売する』という条件を付けたのは、ただ物を売るだけじゃなく、障害者に対する気持ちのバリアを無くしたいという目的もあったんです。」

—売り上げはどんな感じですか？

佐藤さん「4施設が曜日ごとに入れ替わり、パンや豆腐など様々な商品を販売しています。パンは季節限定も含めて延べ200種類以上も作っているほど力を入れているので、パンの売り上げは1日で5～6万円にもなるくらい好評です。」

—最後にメッセージを。

佐藤さん「固定客がついて売り上げも伸びており、保護者の方も安心していらっしゃるようです。今後は、庁舎以外にも広がっていくといいですね。」

※官公需(官公庁からの発注)ではないものの、県庁職員向けの弁当などを、県庁内で授産施設が販売することができないか、協議を開始したところです。課題は多いですが、乗り越えていきます。



発行 長崎県障害福祉課自立支援班(担当:村井) 平成20年3月21日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13

電話095-895-2455 FAX095-823-5082

※本日のセミナーを受けた方から「こんなセミナー受けたことない」というご意見を多数いただきました。来週中に、セミナーで決めたことを実行しているか、受講者同士で確認し合う予定です！

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.11

ニュースレターを発行し始めて、施設の方から徐々にコメントをいただくようになりました。

そこで、今後はお声がけいただいた施設を中心に、直接訪問してインタビューさせていただき、施設のいいところをたくさんの方と共有できれば、と考えています。

その第1弾は時津町にある、精神障害者通所授産施設の桜の庵さんで、施設長の山崎崇さんにお話しをうかがいました。

施設訪問インタビュー～その1

—どんな商品を作っていますか？

崇さん「主力商品は、パンとお菓子です。パンは菓子パン、食パン、黒糖パンがあり、お菓子は国産大豆を使用したおからクッキーや、アソートクッキー、黒ごまパイなどがあります。

また、ざぼん漬けや口砂香(こうさこ)の季節商品、週に1度焼いているパウンドケーキもオススメです。」



自慢のPOPが目をはきます！

—商品の売りは何ですか？

崇さん「たくさんありますが、1つ目は手作りであること。クリームパンの自家製クリームや、無農薬の甘夏を使ったマーマレードは、特に人気があります。

また、品質管理には特に気を遣っていて、内容量や賞味期限のチェックは厳重に行っています。

あと、非常勤職員のお菓子職人さんに技術指導してもらうおかげで、品質には自信がありますね。

もう1つ挙げると、同じ商品でも、売り場や卸し先に合わせて、お客様が買いやすい量・価格に変えたり、袋やパッケージデザインをお客様ごとにカスタマイズしているので、とても喜んでいただいています。ある小学校では、マドレーヌ1つ1つにチョコペンで文字を入れたところ、非常に感激していただきました。」

—販路としてはどんなところがありますか？

崇さん「市民病院や県庁の生協、産地直売所がメインですが、水泳教室や小学校、大学など、リピーターもどんどん増えているところです。」

—今後の抱負を。

崇さん「ギフト商品と直販に力を入れていきたいです。利用者には、自分たちが作った商品をお客様が喜んで購入される様子を見てもらいたい。そうすれば、利用者のモチベーションがもっと高まって、施設がもっと盛り上がっていくと思っています。」

発行 長崎県障害福祉課自立支援班(担当:村井) 平成20年3月28日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13 電話095-895-2455 FAX095-823-5082

※先週21日のセミナーの最後に、講師の平本さんが「ストーリーで売る」という話をされましたが、

桜の庵さんの取り組みはまさにそれ。施設職員の竹山さんが作っているPOP(写真参照)の完成度の高さは、市場でも互角以上に戦えると思います。

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.12

3月23日、南島原市にある普賢学園南有馬（知的障害者通所授産施設）がシモンイモ、紫イモを使った新商品「おどみや島原んもん といも焼酎」の試飲会を開催され、県もお招きいただきました。

今回は、焼酎開発にご尽力された係長の平坂良一さんのインタビューです。

施設訪問インタビュー～その2

－焼酎の原料のイモは、いつから栽培しているんですか？

平坂さん「12年ほど前に法人の本田利峰園長が、高血圧に効くシモンイモと、肝機能の改善に効果がある紫イモを鹿児島から2～3個もらってきて、栽培の研究を開始したのがきっかけです。その後、施設で有機栽培に成功し、JAS認定を受けた後、農業の専門家である大山さんをお願いして、大量生産を始めました。」



ユニークなラベルです。

－焼酎を作ることになった経緯を教えてください。

平坂さん「施設内で、シモンイモと紫イモを使った新商品開発企画会議を月に2回開催し、『ろくべえうどん』や饅頭、かりんとうなどを開発しましたが、もっとブランド力のある商品を作りたい！と考えていたんです。」

「そんな時、流行していた焼酎はどうか？というアイデアが出て、酒造メーカーに電話をかけまくったところ、諫早の杵の川酒造さんには紫イモの焼酎の製造を、また、熊本県の房の露酒造さんにはシモンイモの焼酎の製造を、それぞれお受けいただくことになりました。」

－焼酎のセールスポイントは何ですか？

平坂さん「健康にいいことです。シモンイモと紫イモを原料にした焼酎は初めてだと思います。また、焼酎のラベルは、ご覧のとおり味のあるデザインで、裏面には平成3年の普賢岳災害を報じた島原新聞の1面を使用し、地元島原のブランドであることを全面に打ち出しました。」



試飲会当日は大雨にもかかわらず200人ほどの方が駆けつけました。

－焼酎の卸し先にはどんなところがありますか？

平坂さん「島原地区の土産品店やホテル、スーパー、更にはファミリーマートでも取り扱っていただき、既に700本出荷しています。上々の滑り出しです。」

－今後の抱負をお聞かせください。

平坂さん「地元だけでなく都会の人にも飲んでもらいたいのので、ネットでの販売も行って、地元の特産品として親しまれるようにして、工賃アップにつなげていきたいですね。」

発行 長崎県障害福祉課就労支援班(担当:村井) 平成20年4月4日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

※4月から県の体制も変わり、「就労支援班」が新たにできました。今まで以上にいろんな事業に取り組んで、少しでも工賃が増えるようにつとめていきます。よろしくお願いします。

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.13

今週の日経新聞で、トヨタ自動車とKDDIが障害者雇用促進を目的とする子会社を設立するという記事が掲載されていました。

最近、CSR（企業の社会的責任）が頻繁に取りざたされていますが、子会社の設立はCSRの一環で、明らかに風向きが変わっているのを感じます。

今回は、これに関連して、長崎県内企業に対して実施した「授産施設への発注に関するアンケート」結果の概要をご報告します。

企業アンケート

長崎県内の企業約2000社に授産施設との取り引きの可能性について、アンケートを実施しました。（回答企業は、約1000社）

企業はどう考えているのか？結果の概要をご報告します。

Q 授産施設と取り引きしたことはありますか？

- ①今、取り引きをしている:9.5%
- ②以前、取り引きしていたが、今はしていない:3.6%
- ③授産施設と取り引きをしたことがない:87%

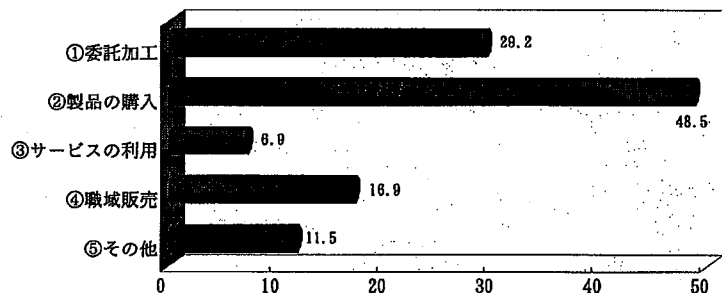
取り引きを開始したきっかけは？
1位 施設職員の営業:58.7%

③の企業に質問

Q 授産施設との取り引きに関心はありますか？

内容によっては検討したい:24.9%
(ただ、取り引き内容は「未定」:65.1%)

Q 授産施設と、どのような取り引きをしていますか？



企業へのアンケート結果によると、授産施設との接点が少ないことがわかった一方、「内容によっては取り引きを検討したい」と回答した企業が1/4もあったことは、予想以上でした。

企業側は関心はあるものの、「どんな取り引きができるのかわからない」という状況でしたので、「発注促進税制」の案内も含め、個別に訪問していくことにしています。

発行 長崎県障害福祉課就労支援班(担当:村井) 平成20年4月11日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

※近日中に、19年度の工賃実績を照会させていただくことになりそうです。新年度当初で、特に忙しい時期だとは思いますが、ご協力をよろしくお願いします。

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.14

平成20年度、工賃の引き上げを促進するために、企業や地方自治体が授産施設等に業務を発注しやすくなるような法律の改正が行われました。

この他、施設が施設外就労などを実施した場合にメリットを受けられる制度も実施されますので、今回はこの制度をご紹介します。

施設外就労等に対する助成制度について

平成20年度に、施設外就労等に対する助成事業が基金事業(全額国庫予算)のメニューとして実施されます。ご存じだとは思いますが、まず「施設外支援・就労」のことから簡単にご説明させていただきます。

◆施設外支援とは

事業所以外の場所での活動(職場実習や求職活動、在宅就労など)が一定の条件を満たす場合に原則年180日を限度として報酬の算定の対象とするものです。

◆施設外就労とは

利用者と職員がユニットを組み、企業から請け負った作業を当該企業内で行うもので、一定の条件を満たす場合に報酬算定が可能となります。

※いずれも、就労移行支援事業、就労継続支援事業(A型、B型)が対象です。

※詳しくは、別途お送りしている「就労移行支援事業、就労継続支援事業(A型、B型)における留意事項について」をご確認ください。

1. 施設外就労推進事業

就労継続支援事業(A型、B型)(※)において施設外就労を実施する場合に、1ユニットに対し1日あたり4,500円を支給する制度です。

※旧体系施設は助成対象となりませんので、ご注意ください。

2. 施設外就労・施設外支援によって一般就労した実績に対する助成

就労移行支援事業、就労継続支援事業(A型、B型)において施設外就労・施設外支援によって一般就労に結びついた場合、就労した利用者1人あたり10万円(1回限り)を助成

※施設外就労・施設外支援を利用せずに一般就労した場合は対象となりません。

※上記2つの事業の実施要綱ができ次第、事業者の皆さんにお送りさせていただきます。

発行 長崎県障害福祉課就労支援班(担当:村井) 平成20年4月18日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

※上の事業を始め、企業との接点を持てるような事業や制度が次々に示されています。ただ、時限の制度が多いので、今のうちに推進できるように1件でも多くの取り引きに結びつけたいです。

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.15

工賃アップのためには、企業との取り引きも重要になりますが、信頼関係を構築するには時間をかけないといけません。

今回ご紹介するのは、全国100万社以上の企業の経済状況を始めとした企業信用調査会社の老舗である帝国データバンクの岩永課長。

帝国データバンクの調査員の方が企業を1社1社訪問して、情報収集されていらっしゃるの、質量ともに圧倒的な情報をお持ちです。

ー長崎県内の経済状況は？

岩永課長「非常に厳しいですね。今まで厳しかったのは建設業など限定的でしたが、最近は個人消費も落ち込んでいて、不況が全般に渡っている状況です。」

ー授産施設に対するイメージは？

岩永課長「授産は生きがいづくりとして位置づけられていると思っていたので、売り上げを増やす取組みをされているのは、ちょっと意外でした。」

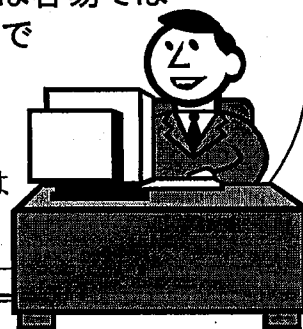
「あと、実際に施設の職員の方と接してみて、真面目な方が多い気がしましたね。売り上げを増やそうとする時こそ、『そっちのチームには負けないぞ！』みたいにゲーム感覚で楽しみながら取り組めると、知らないうちにレベルアップできるんじゃないでしょうか？」

ー企業と比べて、施設の強みは何でしょうか？

岩永課長「施設長などのリーダーシップを発揮する人に、足並みをそろえられるところが、授産施設の大きな強みだと思います。企業の場合、いろんな人がいるので、なかなか同じ方向には進んでいきませんから。」

「企業でさえ厳しい状況なので、授産施設も売り上げを増やすのは容易ではないと思います。ただ、施設長が熱意を持っていれば、施設全体で工賃アップに取り組めて、それが取引先にも伝わるのではないのでしょうか？」

※いつもにこやかな表情でいらっしゃいますが、仕事にける情熱は人一倍。岩永課長、本当にありがとうございました！



発行 長崎県障害福祉課就労支援班(担当:村井) 平成20年4月25日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

※19年度の工賃支払い実績をご報告いただいているところですが、18年度に比べて増えたところが多いように見受けられます。工賃事業の本格実施前に成果が出るのには、本当に頭が下がります。

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.16

全都道府県で工賃倍増5か年計画を策定するようになっていますが、長崎県でも計画を策定しました。

近日中に計画のご報告をさせていただく予定ですが、計画に基づいて事業を実施していく予定です。少しでも工賃引き上げに貢献できるように力を尽くしていきます。

今回は、佐世保市で豆腐の製造から販売まで行っている知的障害者授産施設**麦わら帽子の村吉慶三理事長**にお話をうかがいました。

—豆腐を作るようになったきっかけは？

村吉さん「他では作ってないものを作ろうと思ったからです。地産地消できるようなところもいいですね。将来的には大豆も施設で作りたいと考えています。」

—どんな商品がありますか？

村吉さん「最初はもめん豆腐などの基本商品だけだったんですが、スタッフでアイデアを出し合った結果、今では、豆乳プリン、ババロア、生チョコ、アイスなど、商品がどんどん増えていきました。おからも有効活用するために、おからクッキーを作ったんです。おかげさまで、製造が追いつかない日も出ています」

—商品の売りは？

村吉さん「国産大豆使用で、安全安心なところ。いくつかの大豆を比べてみたところ、佐賀県産の『ふくゆたか』という大豆が一番豆腐に合ったので、立ち上げからずっと使っています。」

—販路はどんなところですか？

村吉さん「店舗と、道の駅など6か所で販売しています。また、NPO法人「大地といのちの会」の吉田俊道さんと一緒に食育セミナーも実施して、商品の良さを知っていただく取り組みもしています。施設を立ち上げてから丸2年経って、徐々に地域に浸透して、お客様も増えてきました。」

—今後の展望を教えてください。

村吉さん「豆腐の賞味期限が4日間と短く、石油価格の上昇による容器などの高騰などリスク要因はあるものの、施設でも一般の考えを持たないとやっていけないですからね。今後もオリジナル商品を作って、皆さんに喜んでいただけるようにしたいです。」

※品揃えも豊富で、店内で食べられるようになっていきます。取材中もお客さんが途絶えることはなく、熱烈的なファンもいらっしゃるとのこと。アイスおいしかったです！



豆乳プリンやアイス、とうふ団子など、豊富な品揃えです。

発行 長崎県障害福祉課就労支援班(担当:村井) 平成20年5月2日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

※工賃倍増事業のことで、長崎新聞社の記者さんが取材にいらっしゃいました。近日中に記事が掲載されると思いますが、工賃の現状などを知っていただくいい機会にしたいです。

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.17

今、施設への発注を促進するための制度が創設されていますが、「在宅就業障害者支援制度(※)」もその1つ。長崎県では、第1号として社会福祉法人 東望会が登録されています。

今回は、同法人が運営する就労継続支援B型事業所 電腦工房(長崎市)の草野順子施設長にお話をうかがいました。

※「在宅就業障害者支援制度」については、長崎労働局のホームページ
[http://www.nagasaki.plb.go.jp/topic/topic\(08031704\).html](http://www.nagasaki.plb.go.jp/topic/topic(08031704).html)をご参照ください。

ー事業内容を教えてください。

草野さん「印刷と縫製が中心で、卒業文集などのデータ入力を企業から請け負うこともあります。」



ホームページも利用者の方が作られます。

ー名刺の印刷では、点字を入れるサービスもされていらっしゃるんですね。

草野さん「熊本県の授産施設のオープニングセレモニーに参加したところ、偶然、福島知事(当時)と席が隣になったんです。その時に知事からいただいた名刺に点字が入っていたので『これはおもしろい!』と思い、帰ってすぐに点字講座を受けて、サービスできるようにしました。」

ー工賃アップの取り組みはありますか？

草野さん「1点目は、施設を利用される方に技術を身につけてもらうために、データ入力の訓練を3ヶ月間受けてもらっています。施設の負担は大きいですが、いいサービスを提供するためには必要だと考えてるんです。」

「また、企業からの受注を促進するために、在宅就業支援団体(※)の申請を行い、県内第1号の団体として登録されました。ただ、企業からの受注には、複数の施設が協力して営業する方が効果的だと思っています。」

その他、工賃アップのネタが何かないか、町を歩いている時も考えています。」

ー懸念材料などは？

草野さん「100円ショップができて、価格が乱れてしまいましたね。あと、中小を始め、企業はハングリーなので、利用者も職員も努力しなければいけないと思っています。」

ー今後の抱負をお聞かせください。

草野さん「利用者に工賃を手渡しする時に、訓練内容と生活面についてのメッセージも渡しているんですが、これからも和気あいあいとする雰囲気を作りたいですね。あと、県からの発注にも期待してます!」

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.18

5月6日、島原市役所前に「便利で美味しい味処」がオープンしました。そのお店は就労継続支援B型事業所なごみのなかよし・キッチン『えぷろん』。ここでは、特製カレーやおいしいお弁当、ケーキ、コーヒーなどをいただきながら、贅沢な時間を過ごせるようです。いったい、どういうお店なのか？えぷろんを運営する社会福祉法人南高愛隣会の松村真美常務理事にお話をうかがいました。

ー「なかよし・キッチン『えぷろん』」を立ち上げた経緯を教えてください

松村さん「当法人では様々な事業をしていますが、接客ができる機会がなかったんです。そこで、障害のある方が、地域で生き活きと働くことができる場が欲しいな、と思っていたところ、市役所前という絶好の場所に物件を見つけ、「食堂喫茶」計画がトントンと進みました。そこに、お付き合いのあったボランティアグループ『ぶどうの会』などのご支援をいただきながら、オープンに漕ぎつけることができたところです。」



いよいよオープン！「いらっしやいませ！」

ーどんなメニューがありますか？

松村さん「4日間煮込んだカレーセットを始め、配達もしている日替わり弁当、手作りケーキセット、お飲物など、たくさんあります。」

ーセールスポイントは？

松村さん「知的障害のある茶屋本店長を始め、障害のある人とスタッフ、そして、多くのボランティアの方々が力を合わせてサービスを提供するところでしょうか。みんな笑顔が素敵で、お店に入るとリラックスできる雰囲気でお出迎えしますよ。」



茶屋本店長自ら、給仕もします。

ー今後、どんなお店にしていきたいですか？

松村さん「地域の皆さんに愛されて、たくさんの方にご参加、ご利用していただけるようになりたいですね。そうなることで、利用者にとっても魅力のある「働く場」になると思います。島原店が軌道に乗ったら、2店舗目も出店する予定です。楽しく働き、工賃も倍増を目指します！」

※笑顔が素敵な茶屋本店長が運んでくださったサラダ、とてもおいしかったです！

発行 長崎県障害福祉課 就労支援班(担当:村井) 平成20年5月16日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

※本号から、施設関係者だけでなく、県内のマスコミの皆様にもお送りさせていただき、発行部数が大幅に増えました。近々、バックナンバーは県のホームページに掲載する予定です。

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.19

今回は、しいたけ栽培を始め、縫製やギフトの詰め合わせ、著作権フリーの本のデータ入力、たまねぎ・じゃがいもの栽培、木工・・・といろんなことに取り組んでおられる大村市の社会福祉法人飛翔会 身体障害者通所授産施設ワーキングヒルズ 矢野武志施設長にお話をうかがいました。

－しいたけ栽培を始めるきっかけは？

矢野さん「以前、しめじの栽培をしていた時に、群馬県で開催された研修会で、大分県のしいたけ業者さんと出会ったのがきっかけです。」

－しいたけ栽培はどのようにするんですか？

矢野さん「おがくずを圧縮して椎茸菌を仕込んだ菌床を仕入れて、湿度、水、温度などが厳重に管理された部屋で栽培します。菌は生き物なので、衝撃を与えると菌が早く成長して採取計画が狂ってしまったり、湿度などの微妙な条件を保つために経費がかさむなど、難しいですね。」

－売れ行きはどうですか？

矢野さん「その日の朝に採ったばかりの新鮮な状態を示す『とれたてくん』というブランドマークを貼り、シュシュさんやジャスコさん、また、他にも直売所などで販売していますがすぐに売り切れてしまうんです。ご進物用としてもご利用いただいております、品質には自信があります。」

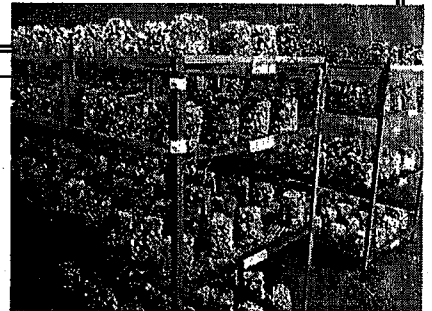
「しいたけ栽培に使った後のおがくずは廃棄せずに、そこでカブト虫を育てて販売しています。お子様には大人気で、こちらもすぐに売り切れるんです。しいたけ栽培には、ムダがないんですよ。」

－施設では工賃を引き上げるために、どんな取り組みをされていますか？

矢野さん「スタッフと利用者で商品開発会議を開催して意見を出し合ったり、売り上げを利用者に公表して意欲を高めるなどしていますが、リーダーだけでなく、スタッフも一緒に盛り上がるのが大切だと痛感してます。他には、3月に受講した『工賃倍増セミナー』で大塚先生のお話を聞いて、原価チェックしたら、施設の強みと弱みが見えてきたのは大きな発見でした！」

－今後の抱負を。

矢野さん「今まで以上に、企業での施設外就労を進めていく予定ですが、民間企業同様、自律した考え方を浸透させて、工賃を大幅に引き上げるつもりです！」



菌床は湿度などが厳重に管理された部屋で栽培されます。



上の菌床がたった数日で・・・

発行 長崎県障害福祉課 就労支援班(担当:村井) 平成20年5月23日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

※今日ご紹介した取り組み以外にも、矢野施設長は時代の先を読んでいろんな活動をされています。お若いのに行動力もあり、私もとても刺激を受けました！お互いに頑張りましょう！

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.20

今回は、施設の売り上げ増に役立つ情報を2つご紹介します。

1つは企業から施設への発注を促進する「障害者の働く場に対する発注促進税制」について、もう1つは施設の運営・体制を強化し課題解決を図る「障がい者の働く場パワーアップセミナー」についてです。

障害者の働く場に対する発注促進税制について

障害者の「働く場」に対する発注額を前年度より増加させた企業について、企業が有する減価償却資産を割増して償却する制度が施行されました。(詳しくは、厚生労働省のホームページ<http://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/zeisei/index.html>に掲載されているパンフレットをご確認ください)

◆税制優遇対象者

青色申告者である全ての法人又は個人事業主

◆適用期間

5年間

◆対象となる発注先

- ・就労移行支援、就労継続支援(A型、B型)、地域活動支援センター
 - ・旧法授産施設(身体・知的・精神)、旧法福祉工場(身体・知的・精神)等
- ※小規模作業所は対象となりません。

◆割増償却額

前年度からの発注増加額(ただし、対象となる固定資産の普通償却限度額の30%が限度)

※企業へ営業される際、制度概要パンフレットを渡して「税金が優遇される」旨の説明をされるなどして、ご活用ください。(なお、国は法定雇用の対象となる全企業に制度概要のパンフレットを発送するそうです)



「障がい者の働く場パワーアップセミナー」について

ヤマト運輸の会長だった故小倉昌男さんが創られたヤマト福祉財団が、施設の活性化や利用者の工賃引き上げなどの課題解決に役立つ「パワーアップセミナー」を開催されるそうです。

セミナーを受けるには受講料が必要ですが、宿泊費や交通費などは財団が負担してくださること。

詳細は、ホームページ(<http://www.yamato-fukushi.jp/works/seminar/>)をご覧ください。

発行 長崎県障害福祉課就労支援班(担当:村井) 平成20年5月30日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

※今日ご紹介した税制改正以外に、国や地方自治体が授産施設等に優先的に発注する法律の制定の動きもあるようです。こちらも正式に決まり次第、ご紹介させていただきます。

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.21

今回ご紹介するのは、諫早市にある精神障害者通所授産施設のワークステーション
むつごろうさん。スタッフの平均年齢は34歳と若く、非常に活気がある施設です。
お話しは、施設長の石丸佳奈子さんにうかがいました。

—施設ではどんな作業をされていますか？

石丸さん「園芸、どっしり君の作成、白炭加工の3作業をしています。メインは、どっしり君です。」

—「どっしり君」とは？

石丸さん「園芸用の重しです。理事長が知り合いの方から『シートを押さえる重しにドロ袋を使っているが、すぐに破れる。もっと便利なのがあれば・・・』と言われ商品開発に取り組みました。改良に改良を重ね、今の商品が5作目となります。耐久性バツグンで持ち運びもしやすいので、JAさんを始め数千個単位でご注文いただいております、売り上げは毎年100万円以上増えています。」

—園芸と白炭加工の状況はどうですか？

石丸さん「野菜はとれたてのものを毎週木曜日に宅配しています。『減農薬でいい野菜だ』と口コミで広がっています。」

「炭は、売り上げが伸びず、何とかしたいと考えていたんですが、臭いや湿気を吸収する特徴を全面に押しだして、お試し利用などで見込み客を増やす手法をとったところ、今では居酒屋などを中心に100件のリース契約をいただくようになりました。」

—そんな炭のアイデアはどのようにして出たんですか？

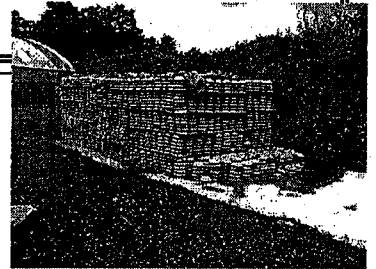
石丸さん「ミーティングです。毎朝夕10分ずつと、月初めに2時間行なうんですが、スタッフが若いこともあり、意見がバンバン出てくるんです。」

—施設に活気があるから、利用される方も喜んでいらっしゃるでしょう？

石丸さん「施設に数年通うと、就きたい仕事は明確になり、『こういうのが足りないから勉強しなきゃいけない！』という変化もありますね。」

—今後の抱負を。

石丸さん「施設を利用される方にはボーナスを年に3回支給しているんですが、もっと増やしたいです。また、利用者は、企業で働くことを目標にしている方も多いので、就職実績をあげて『あそこに行けば就職できるよ！』と言われるようになりたいですね。」



山積みになったどっしり君。
来週、納品されるそうです。



一見、炭とはわかりません。



野菜の宅配契約も、前年比で増加しています。

発行 長崎県障害福祉課就労支援班(担当:村井) 平成20年6月6日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

※今回お話しをうかがった石丸施設長と、精神保健福祉士の久保田次長は性格が対称的なのに
息がバッチリで、施設の雰囲気の良いさが伝わってきました。今後のご発展を楽しみにしています！

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.22

工賃倍増に向けて取り組み始めたところですが、長崎県としても何かできないかと協議を続けていくなかで、いろんなアイデアを検討しているところです。

今回は、そのアイデアの1つである県庁舎内での昼食販売と、長崎県社会福祉協議会授産施設協議会が実施する、JAS法・食品衛生法等の食品の表示に関する研修会をご紹介します。

1. 県庁での昼食販売について

長崎県は、「長崎県障害者工賃倍増5か年計画」の推進や、県職員が障害者への理解を深めることを目的として、「工賃倍増5か年計画」対象事業所に県庁舎内で昼食を販売できるスペースを提供する予定です。(近々、正式に公募する予定です。)

◆対象事業所

- ・就労継続支援B型事業所
- ・身体・知的・精神障害者授産施設(小規模通所授産施設を含む)

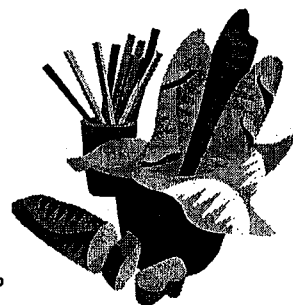
◆販売方法

最低2名の施設利用者を含めた施設の方に販売していただきます。

◆販売事業所の決定方法

申請された事業所の販売担当の方には、販売する商品を持って県庁にお越しいただき、味・価格・接客方法等を審査員に説明していただいた結果をもとに決定します。

※販売期間や申請方法などは、後日お送りする実施要綱をご確認ください。



2. JAS法・食品衛生法等の食品の表示に関する研修会について

食に対する消費者の意識が高くなり、授産施設などにおいても、品質表示等を始め法令遵守が求められているのを受けて、長崎県社会福祉協議会授産施設協議会では専門家を招いて、食品の表示に関する研修会を開催されるそうです。

せっかくの機会ですので、ご興味のある方は参加されてみてはいかがでしょうか？

【日時】 平成20年7月3日(木)13:30~16:45

【会場】 長崎県総合福祉センター4階中会議室(長崎市茂里町3番24号)

【内容】 「JAS法について」「食品衛生法等について」

【講師】 農林水産省 九州農政局 長崎農政事務所(予定)

長崎県県民生活部 生活衛生課(予定)

※協議会の非会員も参加できるそうです。

※参加費を始め、詳しいことは長崎県社会福祉協議会 施設団体課 土井さん(電話095-846-8600)へ お問い合わせください。

発行 長崎県障害福祉課就労支援班(担当:村井) 平成20年6月13日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

※県庁での昼食販売は、関係者との調整が大詰めを迎えているところです。実施にあたっては、企業等への普及効果も見込めるようにしたいと考えています。

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.23

今回は、長崎県産品を最前線で販売している長崎県物産振興協会の専務理事の森内久登さんのインタビューをお届けします。

協会では、県産品を長崎駅前の長崎県物産館や全国の百貨店などでの物産展、インターネットe-nagasaki.com (<http://www.e-nagasaki.com/>) などで販売していますが、物産館での売り上げは過去最高を記録しているそうです。
お中元商戦を控えてお忙しいなか、その秘訣などをうかがいました。

―物産館での売れ行きはいかがですか？

森内さん「昨年度の長崎駅前の物産館の売り上げは過去最高を記録しました。最近では観光客だけではなく、県民市民の来館が増加しています。」

―売れ筋はどんな商品ですか？

森内さん「健康志向と単品志向の商品ですね。」

健康志向で言えば、コラーゲンが入ったゼリーを始め、健康に良いと思われるものがよく売れています。食の安心・安全に配慮している商品が人気があるのも、この流れだと言えるでしょう。」

「また、1コでも買える商品がよく売れるのが単品志向で、贈答用としてだけではなく、ご本人が召し上がるために購入されており、自分への贈り物が増えています。」

―売り上げを上げるために、どんな工夫をされていますか？

森内さん「写真展などギャラリーの利用で人を呼び込んだり、毎月の売り上げベスト10を発表したりしています。何を買いやすいのかかわからないお客様は、ベスト10の商品を参考にして、購入されています。」

―物産館には、ふれあいショップのコーナーもありますね。

森内さん「ふれあいのコーナーでも健康に良い商品が売れていて、観光客よりも地元の方が購入されることが多いようです。これらの商品は、地元の方が利用される産地直売所のようなところが、もっとニーズはあると思います。」

―個人消費が下火の今、商品売るためのヒントがあれば教えてください。

森内さん「贈答品を購入されるお客様は、贈る相手が喜んでくれるか？という視点で品定めされていますので、自分がもらって嬉しい商品か？を意識することは、商品改良のヒントになると思います。また、信頼できるお客様やバイヤーなどからの意見も、参考になるのではないのでしょうか。」



長崎県物産館の入り口では、お中元のオススメ商品がお出迎えしてくれます。

発行 長崎県障害福祉課 就労支援班(担当:村井) 平成20年6月20日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

※「健康志向」商品が売れているとのことですが、6月18日の日経新聞によると、今年上期は「節約」「健康」「環境」関連商品がヒットしたそうです。消費者は、トレンドに敏感ですね。

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.24

先日、平成19年度の工賃支払い実績の照会をさせていただき、集計を行っているところです。

今回、インタビューしたNPO法人障害者就労支援センターアビリティでは、就労移行と就労継続B型の事業を実施されていらっしゃるんですが、B型の利用者の方には県の平均を上回る工賃を支払っていらっしゃるようです。

そこで、その理由などを施設長の富永隆一さんにおうかがいしました。

－事業所を立ち上げたきっかけは？

富永さん「元々、企業で身体障害者の委託訓練を実施していましたが、訓練後の受け皿が不足していたので小規模作業所を設立し、19年4月からは多機能型として事業を開始しました。」

－就労継続B型では、どんな事業をしていますか？

富永さん「生花販売やデータ入力、パンの製造などをしていますが、1番売り上げが多いのはパン部門で、1日に5万円前後売り上げます。」

－そのパン屋のことを詳しく教えていただけますか？

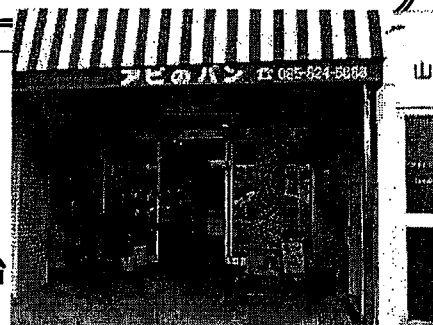
富永さん「『アビのパン』というパン屋で、パンだけでなく、スープも販売しています。お客様は、ご近所にお勤めの方が多いですが、特に女性のお客様にご利用いただいています。8時30分に開店して焼きたてのパンをご用意していますが、午後1時には、ほとんど売ってしまうような状況です。」

「パン屋はどこも同じかもしれませんが、スタッフは6時からの勤務で、利用者の方も7時から作業していただいています。全員の力のおかげです。」

－売り上げを増やすために必要なことは？

富永さん「パン以外の作業も含め、毎日、安定的に作業があることが大切です。また、いい商品やサービスを提供しなければ売り上げは伸びていきませんが、うちの指導員は全て経験者なので、技術指導レベルは高く、利用者の方にも満足していただいています。」

「このようなスタッフに巡り会ったのも、いろんなところで作ったネットワークのご縁によるところが大きいですね。就職先の開拓もそうなんですが、売り上げを増やすためには、企業を含めたいろんな方々とのネットワークをいかに作っていかけるかがポイントだと考えています。」



お昼時は、お客様が絶えずいらっしゃっていました。

発行 長崎県障害福祉課 就労支援班(担当:村井) 平成20年6月27日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

※上にも書いたように、平成19年度の工賃のとりまとめが終わりに近づいています。近々、ご報告できると思います。

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.25

今回は、19年度の長崎県の平均工賃のお知らせと、木工名札を作成できる施設について照会をさせていただきます。

1. 19年度の平均工賃額について

種別	平成19年4月1日時点			平成20年4月1日時点			平均工賃 前年比
	施設数	定員 (人)	平均工賃月額 (円)	施設数	定員 (人)	平均工賃月額 (円)	
知的障害	33	1,048	9,258	33	1,076	8,970	-288
身体障害	13	425	17,557	13	454	16,653	-904
精神障害	10	208	7,884	9	178	7,866	-18
就労B型	13	249	10,759	28	442	14,015	3,256
工賃倍増 対象事業所	69	1,930	11,181	83	2,150	11,334	153

工賃倍増計画対象事業所(就労B型+知的・身体・精神各授産施設)の平均工賃は、18年度に比べて153円増えました。厳しい経済状況の中、相当なご苦労があったと思います。

2. 木工名札を作成できる施設はありませんか？

現在、木工の名札の作成を施設にお願いできないか、県庁内で検討しているところです。
※発注時期や金額などは全く未定ですが、施設に発注できるかどうかを判断するための材料になりますので、ご協力をお願いします。

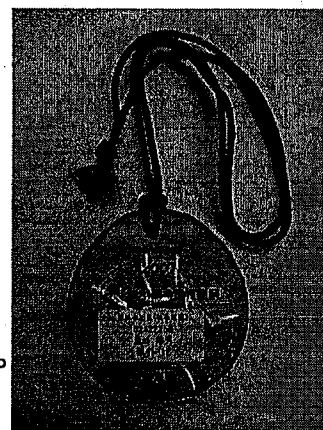
【商品】 木製の名札(右写真をご参照ください)

【納品場所】 島原地区

【作業内容】

1. 木材店が施設に広葉樹(直径10cm程度)、ヒモ、シールを持ち込みます。
2. 1cm厚に輪切りにし、ペーパーをかけて、乾燥させます。
3. ヒモを通すための穴を1カ所あけます。
4. ヒモを通し、シールを貼った後、島原市内に納品していただきます。

※技術的に作成できそうな施設の方は、8月1日(金)までに村井までお電話ください。



発行 長崎県障害福祉課 就労支援班(担当:村井) 平成20年7月4日

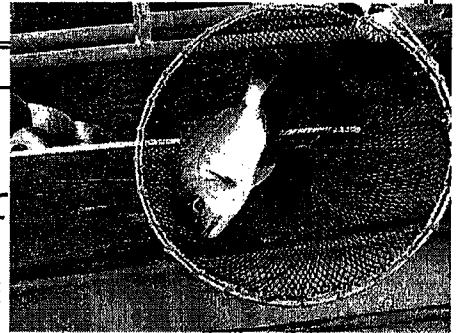
〒850-8570 長崎市江戸町2-13 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.26

施設での授産内容は本当に多岐にわたりますが、南島原市にある知的障害者授産施設あかつき学園では、魚の養殖業をされています。

魚の養殖には、どんなご苦労があるのでしょうか？施設の授産課長の福田勝幸さんにインタビューしました。

－授産で魚の養殖をされていますね。
福田さん「製袋やアイロンプレス、軍手の製造などもしているんですが、魚の養殖は25年以上も前から続けています。今では、他の漁業者と肩を並べるほどです。」



鯛はイキが良く、赤く鮮やかに色づいていました。

－魚の養殖のことを詳しく教えてくださいか？
福田さん「マダイ、シマアジ、スズキを始め、多種の魚を養殖しており、現在、5名の利用者の方が携わっています。漁業は原油高などで厳しい環境下にあります。魚の餌やりなど、いきいきとしている利用者の方を見ると、気持ちが引き締まります。」

－地元の養殖業者さんとの関係はいかがですか？
福田さん「他の養殖業者には負けまいとしないようにしなきゃいけません。いい付き合いをしないと長くはやっていけません。敵というよりは、いいライバルといたところでしょうか。実際、地元の方々から、施設の利用者はとてもかわいがってもらっていますし、みんな仕事に行くのが楽しみなようです。」

－魚の養殖では、どんな工夫をされていますか？
福田さん「サバを始めとして、他の養殖業者がやってない魚を養殖するようにしているところですね。そうすることで、他の養殖業者と競合せずに、よく売れますから。そのために、九州内のあちこちの種苗業者に連絡をとって、魚を探す努力は惜しみません。」

－最後にひとことお願いします。
福田さん「他の施設商品も同じだと思うんですが、施設商品だとワンランク下に見られがちです。だからこそ、肉質にこだわったり、魚の色を鮮やかにしたり、いいものにする手間は欠かしません。そんな取り組みを続けることで得た『あかつき産なら！』という信頼をこれからも守り続けたいと思います。」

発行 長崎県障害福祉課 就労支援班(担当:村井) 平成20年7月11日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

※先日、障害者の職場実習生を受け入れる企業のご案内をさせていただきましたが、今年度も職場実習生を受け入れる企業に対して、設備整備の補助を行う予定です。施設にも募集要項などをお送りしますので、お付き合いのある企業のご担当の方にご紹介いただけると助かります。

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.27

昨年度から「工賃倍増5か年計画」がスタートしていますが、事業者の皆さんから「官公庁も施設に対して、積極的に発注して欲しい」とのご意見をいただいています。

当課でも県庁内に働きかけを続けていくうちに、先日ご紹介した木工名札の案件を始め、少しずつではありますが発注の相談を受けるようになってきました。

今回は、県の関係団体が「愛のタオル」の調達から納入までを請け負える事業所の公募を開始した件について、ご紹介させていただきます。

「愛のタオル」納入事業所の公募について

長崎県肢体不自由児協会が「愛のタオル」の調達から納入までを請け負える事業所を公募しています。※詳細は、長崎県公式ホームページの中の障害福祉課のページをご覧ください。
(<http://www.pref.nagasaki.jp/syogai/koutinn/taorukoubo.pdf>) (以下、概要です。)

【商品】

ポリ袋に入れた白無地フェイスタオルを35,000本(右下写真をご参照ください)

【納品場所】

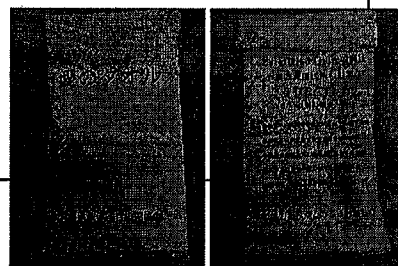
県内各地(1箇所あたりの納品枚数は様々。例年、離島も含め800箇所程度に納品していただいています。)

【作業開始時期】

9月下旬以降に協会が受託者に送付先住所やタオルの本数を連絡しますので、その内容に従って、発送または配送を開始していただきます。(平成21年3月末日まで)

【お見積書提出期限】

7月25日(金)までに、タオルの単価(税抜き)を記載した任意の様式の見積書を協会へご提出ください。(最低価格の事業所と契約し、契約金額は「単価×35,000本×1.05」となります。)



表面

裏面

～県からの発注について、少しご説明させてください～

地方自治体が授産施設から物を購入したり、役務の提供を受けたりする場合、随意契約できるようになりましたが、長崎県の場合には金額に応じて(※)、2者以上からお見積もりをいただくことになっています。

(※3万円を超える物の購入、及び30万円を超える役務の提供を受ける場合)

「随意契約とは1者見積もりのことではないのか？」というご指摘をいただくことがあります。確かに、複数から見積書をいただくことで「たたき合い」が危惧されることは充分承知していますが、施設への発注の流れを作るため、規則を遵守する方法を採用させていただくことをご理解いただきたいと思います。

発行 長崎県障害福祉課 就労支援班(担当:村井) 平成20年7月18日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

※近々、1000社を超える企業に対してダイレクトメール(DM)での販促を実施する予定です。DMの反応率は、通常0.3%(=今回なら3社)とされていますが、フォローコールで相乗効果を狙います。

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.28

今、企業に対して発注促進税制や職場実習設備補助金についてご案内している関係で、企業の方とのやり取りが多くなっています。

今回、お話をうかがった日本紙工印刷株式会社の窪香津子代表取締役社長は障害者雇用に関心を持っておられ、ここ数年、ハローワークなどが主催する障害者就職面接会に参加されていらっしゃるようです。

また、主婦としての立場から、売れる商品についてもお話しいただきました。

—貴社の概要を教えてください。

窪さん「長崎市内にある印刷会社で、ポスターや冊子、伝票、CDジャケットなど多くのデザインと印刷を手がけています。来年で創業60年を迎えるんです。」

—景況感はいかがですか？

窪さん「売り上げは微増ですが、原材料高騰の影響を受けています。競争が厳しく、価格転嫁も難しいですね。」

—貴社では、障害のある方は雇用されているのでしょうか？

窪さん「以前は障害者の方を雇用していましたが、今は在籍していません。ただ、印刷業界は障害者の方も比較的働きやすく、いい人がいれば雇用したいと考えているので、障害者就職面接会などには積極的に参加しています。」

—どのような方を求めていますか？

窪さん「健常者にも言えますが、スキルのある方ですね。前と比べて仕事の仕方が変化しているので、『システムに強い』とか『デザインが得意』など、何か1つでもいいので、強みがある方が欲しいですね。」

—主婦の立場で、施設についてどんなイメージを持っていますか？

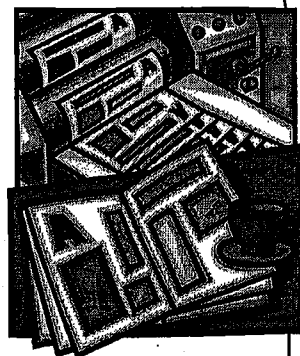
窪さん「施設で働く方はマジメで、商品は信頼できる印象があります。今は大企業でも信用を失うようなことをしている時代だからこそ、セールスポイントにできるのでは？」

—実際に購入したことは？また、もっと売れるようにするには？

窪さん「パンやお菓子、ヘアピンなど、必要なものや実用的なものはよく買ってます。」「先ほども言ったように、品質が信頼できることをPRすればもっと売れると思います。あと、100円ショップと勝負するのは避けた方がいいかも。少しでも付加価値を付けて、差別化を図れるといいですね。」

—今、企業向けに、税制改正や職場実習設備の補助制度などを用意しています。

窪さん「販売促進にしても雇用にしても、施設と企業だけではなかなか進まないの、制度作りを始め、行政の役割やリーダーシップは大きいと思います。弊社でもチャンスがあれば、活用したいと思います。」



発行 長崎県障害福祉課 就労支援班(担当:村井) 平成20年7月25日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

※ニュースレターvol.22でご案内した県庁での昼食販売が関係者の合意を得て、ようやく進み始めました。先日お送りしました実施要綱をご確認いただいたうえで、希望される場合には申請をお願いします。県庁での販売を、県職員に施設のことを知ってもらおう機会にしたいと考えています。

【長崎県】工賃倍增ニュースレター vol.29

先週のニュースレターで窪社長が「信頼できる商品」とおっしゃっていましたが、社会福祉法人宮共生会が運営するハーベストキッチン祇園店では、施設で作った野菜や弁当を販売しており、トレーサビリティがしっかりしているという安心感があるようです。

また、法人が佐世保市から受託している、観光スポットとして有名な展海峰の維持管理のお話も含めて、法人事務局次長の原田良太さんにお話をうかがいました。

ーハーベストキッチン祇園店について教えてください。

原田さん「7月に佐世保市祇園町にオープンしたばかりで、わらびの里で作った新鮮野菜や、その野菜を食材として使用した弁当などを販売しています。」



新鮮な野菜は、主婦に喜ばれそう

ーお客様の評判はいかがですか？

原田さん「弁当の献立は栄養士が作っていて、手作りで栄養のバランスがとれるように野菜をたくさん取り入れていることもあり、毎日ご注文してくださるお客様もおられます。今は、市役所などを中心に配達していますが、ポスティングなどで知ってもらって、もっと多くのお客様に召し上がっていただけるようにしたいです。」

ー次に、展海峰の維持管理のことを教えてください。

原田さん「展海峰は九十九島を一望できる公園で、佐世保市から維持管理を受託して2年目になります。主に公園内の6500㎡以上もある花壇に、菜の花やコスモスを咲かせるための植え込み作業などを請け負っています。きれいな花を咲かせるために1年を通して維持管理をするのは本当に大変です。」

ーご苦労もかなりありそうですね。

原田さん「夏場に雨量が多くなるとコスモス以外の草が生い茂るので、除草が大変になることもあれば、逆に、去年のように給水制限で、水を施設から運び込まなければならぬこともあり・・・他にも、トラクターで耕した跡が種まきに適していなかったもので、耕す刃を取り替えるなど、試行錯誤の連続です。」



9月にはこのエリアの数倍ある敷地
全面がコスモスでいっぱい

ー利用者の方の様子はいかがですか？

原田さん「作業メンバーは15人前後で、土壌を耕す作業から種まき、水やり、花や雑草の処分まで、よく頑張ってくれています。種を一定量まく作業などは、利用者の方が上手ですよ！9月中旬にはきれいなコスモスが咲くので、是非見に来てください！」

発行 長崎県障害福祉課 就労支援班(担当:村井) 平成20年8月1日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

※長年、農業に携わっていらっしゃる尾崎亮三さんが、展海峰の作業のリーダー的な存在ですが、利用者への説明がわかりやすく、やりとりも面白い！秋におじゃまするのが楽しみです。

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.30

地方自治体が障害者支援施設から役務の提供を受ける場合、随意契約ができるように地方自治法施行令が改正されています。

このことを県庁内部でも案内をしていたところ、土木部用地課が管理している土地の除草作業の案件について、見積もり合わせの結果、長崎市にある就労継続A型B型事業所のワークセンターほたるさんに受託していただきました。

今までは民間企業が受託していた案件を、障害者支援施設が受けたということで早速、作業場所におじゃましてきました。

今回は、サービス管理責任者の山崎敏弘さんにお話をうかがいました。

－利用者の方がハウスクリーニングや除草作業に慣れるまでにどれくらいかかりますか？

山崎さん「もともと清掃作業を希望しておられることもあり、半年～1年くらいすれば、作業を任せられるレベルになりますよ。」

－障害のある方が作業をされる強みは？

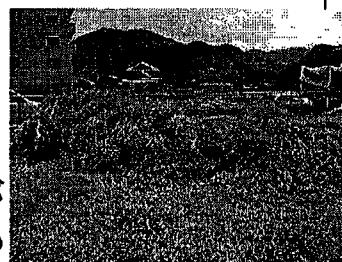
山崎さん「作業スピードはやや遅いものの、作業がていねいで支援員が最終確認するので、仕上がりがきれいなところですね。」

「不動産管理会社が管理している物件の清掃や敷地の除草を請け負っていますが、『油汚れなど落ちにくい汚れもきれいにしてもらえる！』と非常に喜ばれています。だから継続して発注してくださるし、更に、口コミで広げてくださるため、新規のお客様からも発注していただいています。」

「また、金額は市価より若干安めかもしれません。」

－課題などがありますか？

山崎さん「作業の性質上、作業場所が点在するので、移動時間が短くなるようにオペレーションするのが難しいのと、工賃を上げるためには、1年を通じて作業がある状態にしなければならないことですね。」



刈り取られた草が山積みになっていましたが、これでもまだ半分くらいです。

－ご要望などがありますか？

山崎さん「官公庁の案件で、民間企業と入札で競争するのは厳しいですね。今は、民間企業からの案件が多いので、官公庁からの注文が増えることを期待しています。」

－今後も努力していきます！

※作業されていた利用者さんとお話ししたところ、「コンクリートの上は照り返しがきつく、とても暑いけど、生い茂っている草を刈り取って、どんどんきれいになっていくのが嬉しい。」とおっしゃっていました。暑い中、本当にありがとうございます！！

発行 長崎県障害福祉課 就労支援班(担当:村井) 平成20年8月8日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

※昨日で県庁舎内での昼食販売の申込みを締め切りました。今後、具体的な販売方法を詰めて、9月には盛大に販売コーナーをオープンする予定です。

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.31

一口に商売といっても、売る商品やエリア、個人客か法人客か、新規開拓かルート営業か・・・で、売り方は全く違ってきます。

皆さんも、勉強会に参加されたり、読書するなど情報収集されていらっしゃると思いますが、今回は、参考になりそうなビジネス本をご紹介します。

「小さな会社☆儲けのルール」(竹田陽一氏、栢野克己氏共著;フォレスト出版)

1600社の倒産取材をした竹田さんと、家の破産・自身の自殺未遂・職転職失敗5回などを経て、今では日本最大級のビジネスセミナーを開催している栢野さんが、業界1位以外の「弱者」の商法について書かれた本です。※お2人とも福岡市で会社を経営されています。

ご紹介する本の内容「ランチェスターの法則」

◆弱者がとるべき経営戦略は、一騎打ち戦がしやすい商品、営業、エリアを選定し、直接お客と関係する何かで意図的に1番になることを目指す

この本は多数の事例が掲載されていますが、驚いたのが、日本生命の九州一のセールスレディーは福岡市の店舗の方ではなく、平戸市の森さんという方だということ。1戸1戸訪問し、独占状態らしいです。「営業力は面会件数が7割で、質は3割」など簡単に実践できる営業ノウハウが満載。

「超地域密着マーケティングのススメ」(平岡智秀氏著;クロスメディア・パブリッシング)

職人が3人、事務員が2人、営業は著者だけで、商圈も9000人という和歌山の小さな水道設備会社が、INAXの販売レースで2年連続和歌山県内総合1位(個人商店なら関西1位)を獲得した秘訣が書かれています。(著者は29歳です。)

ご紹介する本の内容「お隣10件、名前を言えますか？」

◆何度お客様めぐりをやっても、あなたがその人を知らず、その人があなたを知らない限りは、ただの通行人に過ぎない。だから、お客様の「人生の登場人物」になることが大切

著者は、上でご紹介した「ランチェスターの法則」を実践されています。商品の絞り込みだけでなく、営業レターの書き方、イベントの注意点など、集客を改善したい方にもオススメです。

「なぜ消防署で住宅ローンがバカ売れするのか？」(杉村晶孝氏著;ダイヤモンド社)

著者は、大手金融機関で窓際の憂き目に遭いながらも、血と汗と涙のド根性マーケティング手法を身につけ、金融商品を900億円以上販売されました。

ご紹介する本の内容「コミュニティを狙ったロコミマーケティング」

◆コミュニティや共同体の群れに投網を投げると、そのコミュニティの顧客を一網打尽にできる。特に、消防署などの人間関係が濃密な組織はロコミが一気に広がる

笑えるくらい激しいダイレクトメールや封筒の書き方、送り方だからこそ、読んでもらえるようです。チラシも「ピンク色がダントツに反応する」など実体験に基づいていて、参考になるはずです。

発行 長崎県障害福祉課 就労支援班(担当:村井) 平成20年8月15日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

※上の平岡さんの本に「本を読んでも変わらないという人もいますが、変わるには一定量以上の情報を何度もインプットする必要があるから1年で300冊読んだこともある」と書いてあります。面白いビジネス書は適宜ご紹介し、おススメの本があればご連絡ください!

【長崎県】工賃倍増ニュースレター vol.32

「九州矯正展」に出店しませんか？

矯正展とは、刑務所や少年院などの業務を知ってもらい、矯正行政を理解してもらうことが目的の、長崎刑務所などが主催するイベントです。

矯正展では、コーナーの一部を施設商品の販売に提供して下さるとのこと。

出店に関心のある方は、村井までご連絡ください。詳細についてご説明します。

【出店可能日時】平成20年9月28日(日) 9:30~15:00

※9月27日(土)は「ふれあいショップ」が出店される予定です。

【場所】県立総合体育館(長崎市油木町)

※去年、鹿児島で開催した時は、2日間で6千人が来場されたそうです。

「クロネコメール便」委託業務について

ニュースレターvol.20でご紹介したヤマト福祉財団の「パワーアップセミナー」に参加された「桜の庵」の竹山さんから、ヤマト運輸さまが募集している委託業務について、情報提供していただきました。ありがとうございます！

◆障害者のクロネコメール便配達とは？

ヤマト運輸さまと委託契約を結んだ障害者支援施設が、ダイレクトメールやカタログ、雑誌などをポストに配達するものです。

◆お問い合わせ先

業務に関心のある方は、ヤマト福祉財団の押尾様 電話03-3248-0691
または<http://www.yamato-fukushi.jp/>



「工賃倍増ニュースレター」のリニューアルについて

今年1月から発行を開始した「工賃倍増ニュースレター」。

「工賃倍増って、県は何をやってるの？」という声に応えるため、施設の皆さんと県とのコミュニケーションツールとして発行し始めて、今回で32号となりました。

そして、次号vol.33からはコンセプトを改め、600社を超える企業など「将来お客様になるかもしれない方」とのコミュニケーションに、このニュースレターを活用します。

つまり、次号からは、**お客様と施設とをつなぐ媒体(営業)に変身します。**

内容も「施設の紹介」「企業と施設とのコラボレーション事例紹介」「企業インタビュー」など、主に企業に役立つ情報を提供する予定です。

※取材依頼は大歓迎です。多数の企業とマスコミ関係者へPRできる機会をご活用ください。

※これに伴い、今後、施設向けのお知らせは、ニュースレターとは別に行います。

発行 長崎県障害福祉課就労支援班(担当:村井) 平成20年8月22日

〒850-8570 長崎市江戸町2-13 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

※ニュースレターをリニューアルする理由の1つに、先日1000社を超える企業にダイレクトメールを送った際の反応が悪くなかった、ということがあります。企業が施設と組む潜在的ニーズはありそうです。